

林外務大臣、幹事会で講演

G7広島サミットの成果と今後の外交課題

6月16日に開催された幹事会に、林芳正外務大臣(右写真)が来訪、5月のG7広島サミットの成果と、それにつながる年初の国連安全保障理事会からの活動、今後の課題などについて講演をされた。幹事会は今期より議事に加えて政治家や有識者の講演も実施、機能を拡充している。



自由で開かれた国際秩序を守り抜く G7の姿勢

G7広島サミットはロシアへの強い非難と制裁、ウクライナ支援への団結を確認した場でもありました。今回の侵略は東ヨーロッパだけではなく、国際秩序全体に対する挑戦です。欧州とインド太平洋、東アジアの安全保障は不可分というメッセージをG7として発信しました。日本は議長国として二つの視点を重視しました。一つ目は法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を守り抜くという、G7の強い意思の発信です。力による一方的な現状変更の試みや、核兵器による威嚇、使用は絶対に許されません。二つ目はグローバルサウス諸国に寄り添い、テラーメイドな外交によって国際的なミッションに関与していくことです。4月に経済同友会から、G7広島サミットに向けた提言を頂きました。そこでG7とG7以外の国々をつなぐ「Boundary Spanner(結節点)」という役割を呈示されましたが、まさにそれが二つ目の視点です。議長国として、国際秩序が対立や分断に傾くことなく包摂的なものになるように役割を果たしたいと考えサミットに臨みました。

私自身は1月の国連安全保障理事会での「法の支配に関する閣僚級公開討論」に始まり、グローバルサウス諸国を訪問、各国の外務大臣や首脳に対して法の支配の重要性を訴えてきました。

2月にはミュンヘンで開かれた今年1回目のG7外相会合でウクライナ侵略問題を中心に議論、ロシアの核のレトリックは決して受け入れられず、その使用は重大な結果を招く旨、あらためて述べました。4月には軽井沢での外相会合で、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を堅持していくことを確認したG7外相コミュニケを出しています。世界のどこであれ一方的な現状変更の試みには強く反対するという趣旨ですが、「世界のどこであれ」という文言を含めたのは、外交的に非常に意義がありました。また中国に国際社会の責任あるメンバーとして行動するように呼び掛けること、対話を通じて建設的かつ安定的な関係を築く用意があることも確認しました。かねてより日本が口にしてきた日中関係への期待が、軽井沢、広島を通じてG7全体の共通認識になりました。この他にもさまざまな議論を行いました。そうした積み重ねの上で、G7広島サミットを迎えました。

自由貿易原則と経済安全保障の 適正なバランスについても議論

今回は急きょ来日したゼレンスキー大統領を交え、参加国全てで平和と安定に関するセッションを行いました。議長を務めた岸田文雄総理からは4点の認識の一致について総括がありました。1点目は主権と領土の一体性尊重という国連憲章の原則、2点目は国連

憲章の原則に基づく公正で恒久的な平和、3点目は世界のどこであっても一方的な現状変更の試みを許してはならないこと、そして4点目は法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を守り抜くことです。こうした基本的な考え方につき、招待国を含む幅広い国々の参加を得て認識を共有できたことは、非常に有意義だったと思います。

核軍縮・不拡散については、平和記念資料館訪問で各国首脳に被爆の実相に触れていただき、その後外交・安全保障セッションを行う運びの中で、核軍縮・不拡散の議論をする意義が強調されたと考えます。核兵器不拡散条約(NPT)の維持強化が、「核兵器のない世界」に向けた唯一の道だというG7のコミットメントを再確認しました。

経済安全保障については、G7サミットでは初めて独立セッションを設けて議論しました。このセッションでの議論を踏まえて発出した「経済的強靱性及び経済安全保障に関するG7首脳声明」では、①サプライチェーンや基幹インフラの強靱化、②経済的威圧への対応強化、そして③最先端技術の適切な管理と、④これらの取り組みを通じ、グローバルサウスを含む国際社会全体の経済的強靱性と経済安全保障を強化し、WTOを中核とする多角的貿易体制の維持・強化について確認しました。この四つ目がまさに提言の中で「自由貿易原則と経済安全保障の適正なバランスのあり方の発信」として御

指摘をいただいていた点です。

気候・エネルギーに関しては、「クリーン・エネルギー経済行動計画」を発信しています。クリーンエネルギー経済への移行は貧困を削減、各地域の労働者と社会に利益をもたらす、グローバルサウスとの協力・支援にもつながります。

インド太平洋情勢については、3月に岸田総理が発表した「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP)」のための新たなプランについて紹介しました。FOIPの根底にある自由と法の支配という理念、新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵略などにより近年顕在化した課題を踏まえ、①法の支配、②気候変動などの幅広い分野での協力推進、③多層的な連結性の強化による経済成長、④海だけでなく、空も含めた安全の取り組みを強化するという四つの柱を定めました。こうした協力推進の方策として、積極的に各国の要望を聞く「オファー型」のODA協力や「民間資金動員型」無償資金協力を打ち出し、2030年までにインフラ面で官民合わせて750億ドル以上の資金を動員していく旨を発表しました。官民連携でインド太平洋の活力を取り込みたいと考えています。経済同友会の皆さまにもご支援をお願いします。

中国については建設的かつ安定的な関係を築くことを一貫して重視しています。対話を通じて国際社会の責任ある一員としての行動を求めると同時に、グローバルな課題に協力をしていくこと、東シナ海や南シナ海情勢についての深刻な懸念や、台湾海峡の平和と安定の重要性、兩岸問題の平和的解決を促すことについてもG7首脳で一致しました。北朝鮮については、前例のない頻度での弾道ミサイルの発射が行われています。深刻に懸念をすると同時に強く非難をし、G7メンバーからは拉致問題の即時解決に向けた支持があらためて表明されました。

GX技術を活用し、気候変動・エネルギー等の地球規模課題に取り組む

G7は元々経済的なテーマの議論をすることから始まりましたので、世界経済の議論も行っています。岸田総理から「新しい資本主義」について説明を行い、多くの国から同調を得ました。また、生成AIやメタバースについてG7の価値観に沿ったガバナンスの必要性を確認、特に生成AIについては「広島AIプロセス」として、担当閣僚の下で速やかな議論を行い、本年中に結果を報告することになりました。また、信頼性のある自由なデータ流通「DFFT」については、具体化に向け閣僚レベルの合意に基づき、国際枠組みの早期設立に向けて協力を得たい旨と、議長国として相応の拠出も含めた貢献をしていく旨を述べました。

食料安全保障は、食糧危機への対処と強靱な食料安全保障の確立が急務です。「強靱なグローバル食料安全保障に関する広島行動声明」を発出し、G7と招待国、グローバルサウスと連携し、中長期的な取り組みを目指していきます。開発協力については、SDGs達成に向けた進捗を確認しました。強化に向けては民間資金の導入も重要です。G7のグローバル投資パートナーシップ (PGII) の下で具体的な投資案件をつくっていくこと、国際開発金融機関等が改革を推進していくことへの期待が示されました。日本は本年度で17億ドル以上の人道支援を行っていますが、G7全体として210億ドル以上のコミットメントを表明しました。

また保健分野については、将来のパンデミックに備える観点で発出した「感染症危機対応医薬品等 (MCM) への公平なアクセスのための広島ビジョン」と、併せて重視しているのがユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) です。日本のような国民皆保険制度は、世界

では例外です。ある国での病気発生が全世界に影響する現在、世界全体でヘルスカバレッジすることは、結果として自分たちのためにもなります。官民合わせて480億ドル以上の資金貢献が表明され、日本からはグローバルヘルス技術振興基金 (GHIT) への2億ドルのプレッジを含め、22年から25年において官民合わせて75億ドル規模の貢献を行う考えを示しています。

ジェンダーについては総理から女性・平和・安全保障アジェンダの促進や女性の経済的自立などを有機的に連携させていく旨を発信しました。気候変動・エネルギーについては提言で頂いた内容とも重なりますが、気候変動、生物多様性、汚染といった課題に一体的に取り組む必要性、そして太平洋島嶼国、アフリカ、その他地域の国々も一緒に取り組まなければならない点を確認しました。さまざまなGX技術を活用しながら、ネットゼロを目指すことで合致しています。

継続的な議論と実行を進める

多様な議論を行って広島サミットは終了しましたが、ここからの実行とフォローアップが大事です。9月にはG20のニューデリーサミット、国連総会で首脳が集まる機会もあり、SDGsの先についての議論が始まる見込みです。なお今年にはASEANと日本の友好50周年で、12月にはASEANの全首脳を招いた会合も予定しています。また、日本は本年、国連安保理に席を占め、国際社会を一層主導していく責任ある立場にもあります。安保理だけでなく、総会や事務総長の役割強化も含む国連全体の機能強化に向け、引き続き努力していきます。G7の議長国としての役割は今年末までありますので、マルチの国際会議の場でフォローアップしていくと同時に、国益を守っていきたくと考えております。